



## 知っていますか？ 消毒薬の正しい使い方

新型コロナウイルス感染症の広がりがなかなか収束を見せないなか、街中の至るところに消毒薬が置かれているのを目にするようになりました。一口に消毒薬と言っても種類も使い方もさまざまで、目的にあったものを正しく使わなければ、期待した効果は得られません。

### 速乾性手指消毒薬

医療機関では多種類の消毒薬を目的に応じて使い分けますが、市中でよく設置されているのは、消毒用アルコール（濃度80%程度のエタノール）や界面活性剤系（塩化ベンザルコニウム、塩化ベンゼトニウムなど）の成分を含んだ速乾性手指消毒薬です。速乾性手指消毒薬それ自体に洗浄作用はないので、目に見える汚れがある場合には石鹼と流水で洗います。消毒薬の適量は製品によって異なりますが、手に取ってから15秒以内に乾燥しない程度の量とされています。ポンプタイプの

場合、1プッシュ分、最後まで押し切る  
ことが大切です。

適量を手のひらに取ったら、すぐに両手をこすり合わせてはいけません。手のひらにためた消毒薬に反対の手の指先を浸してよくこすりまわります。次に消毒薬を反対の手のひらに移して、もう片方の指先を同様によくこすりまわります。次いで、手のひら↓手の甲↓指のあいだ↓親指↓手首と順番に擦り込みます。消毒薬が乾くまでしっかりと擦り込みます。文字だけではわかりにくいですが、消毒薬メーカーが動画サイトで使い方を紹介しているので、ぜひご参照ください。

### 次亜塩素酸ナトリウムと次亜塩素酸水

これらはよく似た名前ですが、全く別のもので、次亜塩素酸ナトリウムは塩素系漂白剤の主成分で、新型コロナウイルスにも有効です。テーブルやドアノブなどの消毒に使うことができますが、身

体には使えません。0・05%に薄めて対象のモノを拭き、その後、水拭きします。

次亜塩素酸水もモノに付着した新型コロナウイルスの感染力を減弱させることが確認されていますが、その時の濃度や拭き方は複雑で、この記事には書き切れません。不安定な物質で、保存状態によっては短時間で効果がなくなってしまう。「次亜塩素酸水」として販売されています。成分がはっきりしない製品もあるようです。

### 空間除菌

厚生労働省やWHOなどでは、空間除菌を目的に、人がいる空間に消毒薬を噴霧することを推奨していません。消毒効果が不十分であるばかりか、目などへの付着や吸入による健康被害の可能性があるので、避けることが賢明です。消毒薬を正しく使って、この冬を健康にお過ごしください！